

令和
7 年度

事業所における自己評価総括表（公表）

COMPASS 発達支援センター松茂



| | | | | |
|----------------|-------------------|-----|--------|-----------|
| ○事業所名 | COMPASS発達支援センター松茂 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年9月10日 | | ～ | 令和7年9月27日 |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 26人 | （回答者数） | 25 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年9月5日 | | ～ | 令和7年9月16日 |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 7 | （回答者数） | 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年10月9日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的にやっている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。 各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れて、計画書や日々の療育に取り入れております。 | 各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。 複数の地域に事業所があるので、不明な点などは指定権者に確認をし、法令に沿った事業所運営をおこなっております。 | 児童が楽しみながら通ってくる事業所、成長を感じられる事業所、安心して通っていただける事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。 |
| 2 | 机上課題では、個別での支援を大切にしています。 職員との一対一での関わりの中で個々に寄り添った支援に努めています。 | 個別での落ち着いた環境づくりに努め、児童一人ひとりの個別支援計画に基づいて療育支援をおこなえるように職員間で計画内容の周知と日々の療育の様子を共有し、次の療育に繋がるように意識して取り組んでいます。 | 引き続き、一対一での関わりを大切にさせていただき、より一層児童一人ひとりの特性の理解に努め、安心して心地よく通っていただける事業所づくりを職員一同目指してまいります。 |
| 3 | 多職種で連携することで、児童の発達段階や個性、生活環境に合わせた総合的な支援に努めています。 | 日々の療育や機能訓練等を保育士、理学療法士、作業療法士等、様々な職種の職員がそれぞれの専門性を活かし、児童の健康と成長を多角的にサポートできるよう取り組んでいます。 | 児童一人ひとりの課題を明確にし、情報共有の仕組化、チームとしての専門性の向上、ご家庭との連携を大切に、進めてまいります。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 事業所内のバリアフリー化 | 利用児童の特性に応じた視覚支援や年齢発達に応じたものの配置・導線作りに努め、定期的に見直しをおこなっていますが、建物の構造上難しい箇所があるのが現状です。 | トイレや玄関（1階）に段差があり、外の車両等の騒音が時々聞こえてきます。 完全なバリアフリーには対応していませんが、今後も与えられた環境の中で利用児童一人ひとりの特性に応じた環境作り・配慮を最大限できるよう努めてまいります。 |
| 2 | 利用希望者が増大した際の送迎体制の確保 | 配置人数が限られているため、利用希望人数が増大した際に、送迎サービスの体制を整えることが困難な場合があります。 | 現在は、児童の送迎に保護者様のご協力をいただき、利用希望者が増大したときには、希望者の利用の受け入れをさせていただいております。 今後、送迎サービスの体制を整えていけるように努めてまいります。 |
| 3 | 放課後児童クラブや児童館等、地域の児童達との交流 | 現在放課後の時間は、高学年の児童が多く、地域の児童達との交流の時間が持てていないのが現状です。 | 長期休みの際、地域の施設を利用し、様々な方との関わりを経験できるように努めています。 今後、保護者様や児童のご意見を踏まえて、地域との交流が必要であるのかも含めて検討してまいります。 |



公表日：令和 8 年 1 月 24 日